

2024 年度実施 明治大学研究者交流支援制度実施報告書

研究者氏名

LOMO MYAZHIOM Aggée Célestin

招聘期間

2024 年 12 月 12 日－2024 年 12 月 23 日

滞在中に実施した講演



(ロモ先生)

(1) 特別講義「障がいと多様性：ハイチとアフリカからの比較アプローチ Traitement social et politique de la diversité et du handicap : approches internationales entre Haïti et l'Afrique」(開催地：明治大学和泉キャンパス 1143 室、使用言語：フランス語(通訳あり)、参加者数：56 名)

(2) 国際シンポジウム「カール・ポランニー没後 60 周年記念シンポジウム：人間経済における負債と貨幣 Symposium on the 60th Anniversary of Karl Polanyi's Death "Debt and Money in the Human Economy"」における報告「ハイチ対フランス：奴隷制と負債の問題 Haiti versus France: the problem of the debt of slavery」(開催地：明治大学駿河台キャンパス 1096 室、使用言語：英語、参加者数：74 名)

概要

ロモ先生は、中央アフリカ生まれ、カメルーン育ち、現在はフランスのストラスブール大学で教鞭をとる歴史学者・人類学者である。専門地域はフランス語圏のアフリカとカリブ海地域であるが、近年ではとくに (1) ハイチおよび西アフリカの障がい者問題と (2) ハイチの奴隷制の研究に力を注いでいる。今回は、明治大学研究者交流支援制度を利用して、(1) と (2) それぞれの主題について別個に講演を行っていただいた。貧困地域における障がい者問題は、インクルージョン推進の必要性が強調されている現在の日本において示唆に富む主題であり、またハイチにおける奴隷制は日本国内ではほとんど知られていないものの現代のグローバルサウスにおける債務問題を先取りした主題であることから、学生や研究者の関心を集めると期待できる。

まず、(1) のハイチの障がい者問題をめぐってロモ先生は、障がいを医学的・生物学的

現象とみるのではなく、社会・文化的な構築物として検討することの重要性を指摘した。これは歴史や地域が異なればなにが障がいとも変化することを意味する。ゆえに比較研究という方法論が重要となる。それだけに、大西洋奴隷貿易と植民地支配の歴史によって結ばれたアフリカとハイチは貴重な事例となる。ロモ先生は、とりわけ障がいを負う者がいかに認識されるかについて考察し、そこでは医学以上に宗教（ハイチにおけるヴードゥーなど）がはたす役割が大きいことを指摘した。さらにロモ先生は、伝統と西欧的生物医学、双方の混淆的知識の狭間で、障がいがいかに引き受けられ、いかにケアされるかというプロセスに注目し、その実例として、社会から差別的な表象化を受けてきた四肢に障がいをもつハイチの子どもたちが専門施設における柔道の実践を通じて社会性を回復していく過程を紹介した。ロモ先生によれば、障がいは文化や社会によって作り出されるものであるがゆえに、障がいがいかにしてあるかを問うことは文化や社会を問い直すことにほかならないのである。

本講演には学生を中心として 54 名の参加者があった。参加者からは障がい者の社会統合を進めるうえでスポーツが果たしうる役割や、日本における障がい者問題との比較などをめぐり質問が寄せられた。授業後も参加者数名と 30 分あまり議論がつづくなど熱のある講演会となった。

(2) のハイチの奴隷制をめぐる講演は、「カール・ポランニー没後 60 周年記念シンポジウム：人間経済における負債と貨幣」の報告のひとつとして実施された。ロモ先生によれば、熾烈な闘争の末、1804 年に大西洋の奴隷制から解放された最初の独立「黒人」共和国であるハイチは、その抵抗のために高い代償を払った。新しく独立した共和国は、旧植民地宗主国への補償のために、1 億 5 千万フランを支払わなければならなかったのである。1947 年まで、ハイチはこの不当な負債を返済してきた。ロモ先生によれば、これは過去の出来事ではない。2003 年から 2004 年にかけて、ハイチのジャン＝ベルラン・アリスティド前大統領は、フランスに「独立の負債」を支払うよう要求した。数ヵ月後、彼はクーデターによって打倒され、中央アフリカ共和国のバンギに追放された。結局今日に至るまで、フランスはハイチにたいしてなんの補償も行っていないのである。そこには、被害者が告発されるという転倒した状況の継続がある。奴隷制を人類に対する犯罪と見なされているにもかかわらず、誰も責任を負わず、有罪ともなっていない。一方、この負債が過去 2 世紀にわたるハイチの社会経済的・政治的衰退の要因のひとつとなってきたのである。

本講演はハイブリッド方式で行われ、74 名の参加者があった。ハイチの奴隷制が不当な負債へと転嫁されることによって過去の出来事ではなく現在も継続中の問題としてあると

いうロモ先生の指摘は聴衆に少なからぬインパクトを及ぼした。会場では、人種主義と奴隷制の根源的な結びつきについて活発な議論が交わされた。



(講演会の様子)

以上2回の講演の他にも、ロモ先生には、招へい研究者のフランス語の授業に計3回参加し、ハイチやアフリカを紹介するとともに学生とフランス語による交流を行った。授業中に学生から寄せられた質問には後日詳細な回答をいただいた。また今回の滞在中にロモ先生は、水俣病の研究のために熊本を、宗教施設を訪問するため青森を訪れるなど、精力的に調査研究を実施した。総じて明治大学研究者交流支援制度を活用した今回の日本滞在は、ロモ先生にとっても、招聘者にとっても、講演参加者にとってもきわめて充実したものとなった。

(文責 佐久間寛)